

鉄砲洲神社 論語素読 解説

(平成22年7月16日)

雍也第六

1 子曰く、雍や南面せしむべしと。仲弓 子桑伯子を問う。子曰く、可なり、簡なればなりと。仲弓曰く、敬に居て簡を行い、以て其の民に臨まば、亦可ならずや。簡に居て簡を行わば、乃ち大簡なること無からんやと。子曰く、雍の言然りと。

雍とは、仲弓のことです。

南面せしむべしは、公の場所では君子はいつも南に向いて座り、北に向かって座った臣下の礼を受ける。ですから南に向って座る人物とは、トップの人物です。

孔子が仲弓に「お前は人の上に立てる人物だよ」と言いました。

仲弓が「老子流の学問をした子桑伯子は私に似ていると聞きますが、子桑伯子は如何でしょう」と聞きました。

孔子が「非常に寛大な人物で、鷹揚だから良い」と答えました。

仲弓が「慎みを忘れず大まかな行動で国民に接するのであれば大丈夫でしょうが、心構えが大雑把で行動も大雑把では、最終的にしまりがなくなって人様に迷惑をかけはしませんか」と聞きました。

孔子が「お前の言うことはもっともだね」と答えました。

孔子がお弟子さんにちょっと詰められたというような場面です。

現代にあわせて考えてみましょう。これを読んで思い浮かぶのは菅さんと鳩山さんです。

菅さんは若い時に、60代になったら総理大臣になると公言をしていました。民主党の代表戦に一番多く名乗りをあげた人ですから、常に自分は南面に座るべき人物だと思って、そのように段取りをして南面に座っていた人だと思います。周りに押されて自然と南面に座る人と、作為的に座る人との差が極端に出てきていると感じます。

「簡に居て簡を行わば、乃ち大簡なること無からんや」の部分は、そのまま鳩山さんの批評になりました。鳩山さんはもしかしたら緻密な頭脳を持っているのではないかと考えましたが、結果的には、見た目も脳みそも大まかだったなと思います。

2 哀公問う、弟子孰か学を好むと為すと。孔子对えて曰く、顔回という者有り、学を好めり。怒りを遷さず。過を貳びせず。不幸短命にして死せり。今や則ち亡し。

いま がく この もの き
未だ学を好む者を聞かざるなりと。

哀公が孔子に、「お弟子さんのうち、誰が一番学を好むと言えますか」と聞きました。

孔子が答えました。

「顔回という一番弟子がいたけれども、本当に学を好んでいた。怒りの情に駆られることもないし、同じ過ちはしない。しかし不幸にも早死にをしてしまった。もう今は私の周りには学問を好む者はいない。世の中を見渡しても本当に学を好む人間はいないし、そういう評判も聞かない。非常に残念だ」

後継者を失って、孔子が愚痴を言っています。

早死にはよくないと感じます。渋沢栄一さんは80歳を過ぎて、「早死にしてはいけない。長生きが良い。岩崎弥太郎や五代友厚のように、早死にをすると事業の途中で死ぬようになる」と言っています。

私の師匠の木内信胤先生も、「早死にはだめだよ。長生きするが一番だ」と、よく言っておられました。木内先生が90を過ぎておられる時に、「先生は死ぬ心構えはおありですか」とお聞きしたことがあります。すると先生は、「失礼なことを聞くものではない。死ぬ時は立派に死んでみせる」とおっしゃいました。その時、「先生は怖いものはありますか」とお聞きしたら、「気が違うことだねえ。自分が自分でなくなるのが一番怖い」と答えられたのを覚えています。

3 子華 齊に使す。冉子 其の母の為に粟を請う。子曰く、之に釜を与えよと。益さ
んことを請う。曰く、之に庾を与えよと。冉子 之に粟五秉を与う。子曰く、赤の齊に適
くや、肥馬に乗り、輕裘を衣たり。吾 之を聞く、君子は急を周いて、富めるに継がず
と。原思 之が宰と為る。之に粟九 百を与う。辞す。子曰く、毋かれ。以て爾の隣里
郷 党に与えんかと。

孔子のお弟子さんで子華という人が、孔子の用事で齊の国に使いに出されました。

冉子は孔子のお弟子さんです。孔子が魯の国の中で非常に勢いのある時に、孔子の執事長・出納長のような役をしていました。

冉子が孔子に、留守宅の母親の為に粟(粳)をあげて下さいとお願いをしたところ、孔子が「釜をあげなさい」と言いました。

あまりにも少なすぎるので、もう少し増やしてあげて下さいとお願いしたところ、孔子が

「庾をあげよう」と言いました。

孔子のお金の管理をしている冉子が、孔子に黙って粟を五秉をあげました。それを知って孔子が、「子華は齊の国に行くのに優秀で肥えた立派な馬に乗って、良い皮衣を着て行ったと聞いている。君子たるものは、困窮している者は助けるけれども、金持ちには足し増しなどしないものだ」と言いました。

釜は六斗四升、日本で言うと五升七石だそうです。庾は十六斗、日本の一斗四升三合です。五秉は日本の七石一斗八升五合九勺です。

孔子が弟子の原思に魯の国の代官を命じました。お給料として粟九百（百石）をあげることになりましたが、原思がこんなに貰えないと辞退したので、孔子が怒って「とんでもないことだ。正当な理由をもって与えられる給料は、きちんと受け取らなければいけない。他の人間に対しても示しがつかないではないか。もしも本当に多いと思うのであれば、お前の故郷の貧しい者達に与えなさい」と言いました。

孔子は金持ちの子華とは対照的に、貧しい原思には十分な給与を与えようとしたわけです。

これを現代に当てはめると、そっくりの現象があります。民主党の子供手当です。貧しい人にも、金持ちにも出す。おまけに外国人にもばら撒くということです。北朝鮮では、日本に行って子供手当を貰う為のマニュアル本が出来て、その勉強会なるものもあるようです。同様に中国や韓国でも、日本で子供手当を貰うにはどうしたらよいかという学びが進んでいるようです。金持ちにお金を上乘せして出すようなことはやってはいけないと孔子が言っているのを、少しは鳩山さんも勉強すれば良かったのではないかと感じます。

本日は以上です。有難うございました。